

「機能性ディスペプシア」

食後のもたれ感、膨満感やみぞおちの痛みなどのつらい症状、ひよっとしたら機能性ディスペプシア^①かもしれません。

①「機能性ディスペプシア」とは

逆流性食道炎、胃十二指腸潰瘍、胃がんなどの病気がなくても、食後のもたれ感・膨満感やみぞおちの痛みなどのつらい症状が出る場合があります。これを以前は「慢性胃炎」とすることが多かったのですが、最近「機能性ディスペプシア」というようになりまし。生命に関わるものではありませんが、つらい症状により生活の質を大きく低下させてしまう病気です。この診断のためには、他の病気や、日本人に多いピロリ菌に感染していないかどうかを確認する必要があります。（胃カメラ）を使用しますが、当院で導

② 中核病院との連携「波と風ネット」

「波と風ネット」とは、患者さんの医療情報を「呉医療センター」と複数の施設で共有する事で医療の質向上を図り、患者さんとその家族に「安心」を提供するシステム。診断の結果によって必



右/最新の上部消化管内視鏡検査装置（胃カメラ）
上/胃カメラの先端。直径が5mm（従来のものの半分ほど）と細く、検査が格段にラクに

入している最新の胃カメラは直径約5mmと細いので患者さんへの負担が少なく、鼻からの挿入も可能です。「機能性ディスペプシア」の治療は、消化管運動機能改善薬や制酸剤などの薬で行うことが多いのですが、漢方薬（エキス剤）を併用する事でより効果的な場合もあるので、積極的に使っています。

要になる他の専門医との連携をとるため「よしかわ医院」ではこのネットワークを最大限に活用し、より高度で安心な医療サービスの提供に努めています。

よしかわ医院 院長 吉川幸伸

医師紹介

● 外科医



院長 吉川幸伸

● 外科・内科・漢方

「専門性を活かしつつ、地域のかかりつけ医として心の通った医療を目指します」

1956年高知県に生まれる
1981年3月 大阪大学医学部卒業
2004年6月 川崎病院外科総括部長
2005年5月 日生病院外科部長
2008年7月 呉医療センター外科医長
2009年9月 呉医療センター外科医長 外科系診療部長兼任
2013年8月 がんセンターがん診療部長兼任
2013年10月 よしかわ医院開設

外科・内科を幅広くカバー 気軽に相談できる “まちのかかりつけ医”

ひとくちに外科といっても、消化器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、呼吸器外科など専門性によって科が細かく分かれており、一般の人にとって自分がこの科にかかったら良いのかを判断することは難しいもの。そんな時にまず相談できるのが「よしかわ医院」。国立病院機構呉医療センター・中国がんセンターで専門としてきた消化器・甲状腺疾患・癌ばかりではなく、広く一般的な病気の治療に対応出来る。まちの

「かかりつけ医」を目指しており、一般的な外科・内科のほか粉瘤・脂肪腫など皮膚腫瘍の摘出手術、肛門疾患の診察・治療、禁煙外来まで幅広く対応してくれる。特に甲状腺に關しては、頸部超音波検査（甲状腺エコー）や、経皮穿刺細胞診（細い針を刺して細胞を採取し顕微鏡で診断する）、良性のう胞などにはエタノール注入など、一歩踏み込んだ検査・診療も可能。気になる症状があったら、まずはお気軽に相談を。



よしかわ医院 <http://yoshikawa-cl.jp/>

呉市中央 1-3-1 光陽ビル 2F ☎ 23-2066

※リベラビルタワーパーキングをご利用ください（1時間無料）

【診療受付】 9:00 ~ 12:30、14:30 ~ 18:30

【休診日】 水、日曜・祝日、土曜午後

※6月30日（月）より上記診療時間に変更します

※異動月、第一土曜診療終了後に、健康についての情報を分かりやすく説明する「健康講座」を開催しています。興味のある方はご参加ください（次回は8月2日開催予定）。

今回のテーマ：「漢方的夏の健康法」

